京都大学大学院文学研究科図書館蔵『字鏡抄無名字書』と『東宮切韻』

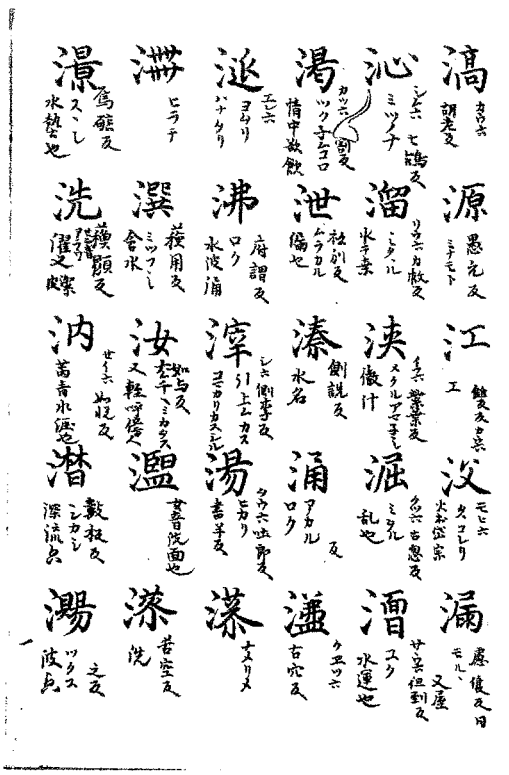
中野　直樹

1：はじめに

1－1：『字鏡抄無名字書』の概観と本稿の目的

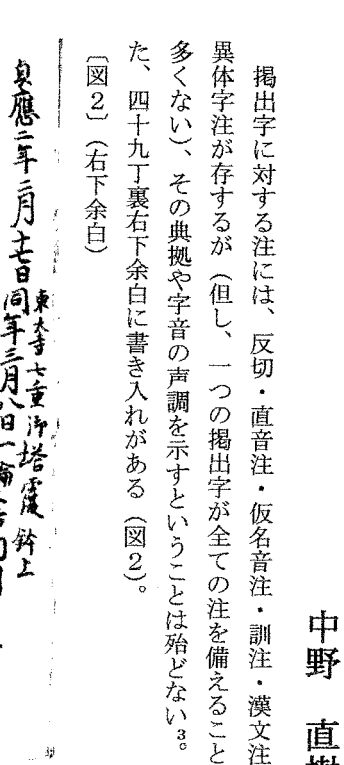
京都大学大学院文学研究科図書館蔵『字鏡抄無名字書』（以下『無名字書』）一冊は、前半部と後半部を欠く残欠本の字書である。墨付丁数は七十九丁で[1]、総掲出字は三九二五字。本文は部首立て毎半葉縦六行、横五段で揃えて単字掲出されており（まれに二字掲出）[2]、無辺無界となっている（図1）。

〔図1〕一丁表



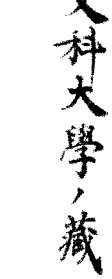
掲出字に対する注には、反切・直音注・仮名音注・訓注・漢文注・異体字注が存するが（但し、一つの掲出字が全ての注を備えることは多くない）、その典拠や字音の声調を示すということは殆どない[3]。また、四十九丁裏右下余白に書き入れがある（図2）。

〔図2〕（右下余白）



また、七十八丁表に奥書がある（図3）。

〔図3〕



この奥書により、本書は明治期に東大本を謄写したものであることが知られる[4]。本書原本の成立時期については、四十九丁裏の記述や本文の字体等から、橋本（1924）・岡田（1927）・川瀬（1955）では、鎌倉期のものに属するとしている。

本稿は、この『無名字書』の反切と漢文注の典拠を示し、さらに、それがどのような方針でもって引用されているのかを明らかにするものである。

1-2:『無名字書』の注文に関する先行研究

『無名字書』の反切・漢文注について考察したものに、貞苅（1966）がある。貞苅氏は、『無名字書』の反切と漢文注を『瀛涯敎煌韻輯』所載の「切韻」や『広韻』、『宋本玉篇』と比較し、反切については一部『宋本玉篇』と同じ例を見出しつつも、全体的には韻書的性格を有するものであるとした。

しかし、漢文注については「ただ漢字釈義の方で符合しないものが目立つので、現存韻書にこれを擬することはできそうにない」として、典拠は不明とした。

貞苅氏のいう韻書的性格とは、反切用字や漢文注の面で「玉篇」などの字書よりも、同じ注を見出だしやすいということのほかに、注文が簡単であるという意味も含めてのことと考えられる。『無名字書』の漢文注をみれば明らかなように、甚だ簡なのであり、原本系「玉篇」の注などと比べたとき、確かに「韻書的」といえるのである。

2:『字鏡抄無名字書』の反切・漢文注について

2-1:現存韻書との比較（反切）

『無名字書』の反切がなんらかの「切韻」を典拠にしていることについては、貞苅氏が明らかにしたところである。

そこで、筆者は本字書の反切の典拠となった「切韻」の系統を明らかにするために、現存の「切韻」である『切三』[5]を用いて全例の比較を行った。その結果、両者はほぼ同じ反切であることが明らかとなった（全同ではない）[6]。

以下に『無名字書』と『切三』の反切を対校した結果を示す。

『無名字書』の全反切例	2569例
『切三』の現存部分であり、『無名字書』と対校可能な例	1488例
右のうち、『切三』と同じ反切例	1176例[7]（約79%）

次にその例を挙げる（先頭は『無名字書』の反切。傍線は筆者による。以下、引用に際して、字体等は出来る限り各文献に見られるままにした）。

15オ「蟻」魚倚反　『切三』『王三』『広韻』魚倚反（切）／『王二』魚綺反

48ウ「喬」巨朝反　『切三』巨朝反／『王三』竒驕反／『p2014-4』巨嬌反／『広韻』巨嬌切

53ウ「蹻」去囂反　『切三』去蹺反／『王三』『広韻』去遥反（切）

『p2014-4』去遙反

これにより、『無名字書』の反切は、貞苅氏のいうように、「切韻」由来の反切であり、しかも、その依拠した「切韻」は初期のものに属すると考えられる。また、初期の「切韻」の中では他本に比して、『切三』が最も近い。

『切三』の反切と合わない例が312例存するが、この中には誤写や「玉篇」・「玄応音義」の反切と思われる例が含まれているので（後述）、これらを除けば、『無名字書』と『切三』の反切はさらに近いことが分かるのである。

また、『無名字書』の反切が初期「切韻」を引いていることの証左として、避諱[8]をしていない反切の存在を挙げることができる（傍線部）。以下に、『無名字書』に見られる例を全て挙げる[9]。

1 オ「洗」蕪顯反　（『切一』『切三』蘇顯反、『王三』蕪典反、『広韻』蘇典切に作る。）

14 オ「蜓」徒顯反　（『切三』同じ。『王一』『王三』『広韻』徒典反（切）に作る。）

53 オ「跣」蕪顯反　（「洗」に同じ。）

53 ウ「蹕」刄世反　（初期「切韻」逸のため、避諱による反切用字変更があったか不明。『王二』同じ。『p3696-2』丑世反。『王一』（踐）『王三』（踐）丑勢反、『唐韻』刄例反、『広韻』は丑例切に作る。）

77 オ「兆」呂小反　（治小反の誤りか。『切三』『P3693』『広韻』治小反（切）。『王三』は直小反に作る。）

右の例をみると、『無名字書』の反切には、「顯」字が用いられているので、少なくとも中宗（李顯）が即位する683年以前の「切韻」の反切が引かれていることは明らかである[10]。

2-2：現存韻書との比較（漢文注）

貞苅（1966）では、『無名字書』の漢文注について現存の韻書に典拠を求め難いとした。

筆者の調査でも、いくつかの「切韻」に同じ注を見出だすことができたが、唐土における現存の「切韻」に具体的な典拠を見出だすことはできなかった。

2-3：「玉篇」・「玄応音義」との比較

『無名字書』の反切と漢文注の中には少数であるが、「玉篇」・「玄応音義」の反切・漢文注と同じ注が見られる。

『無名字書』に「玉篇」の引用があった可能性については、既に貞苅（1966）にて指摘されているが、今回新たに『玄応音義』の引用が疑われる注を見出した。

〈「玉篇」引用の可能性のある例〉

24 ウ「惻」楚力反　悲也至痛

『篆隷万象名義』楚力反　痛也悲也／『宋本玉篇』楚力切　悲也痛也

34ウ「挨」乙駭反　推

『篆隷万象名義』乙駭反　推也擊背／『宋本玉篇』乙駭切　推也

〈『玄応音義』引用の可能性のある例〉

40ウ「捫」莫奔反　摸

『玄応音義』摩捫　莫奔莫本二反　聲類云捫摸也

46ウ「醫」於其反　治病工

『玄応音義』醫者　於其反　説文治病工也（略）

右の例はいずれも、『無名字書』と「玉篇」・「玄応音義」の反切・漢文注とが同じで、なおかつ、切韻系韻書に同様の漢文注が見えない例である（「玉篇」引用の可能性のある例に関しては反切も切韻系韻書に見えない）。

しかし、「玉篇」・「玄応音義」は、切韻系韻書と同じ反切・漢文注を持っていることもあるので全ての例の弁別は難しい[11]。よって、ここでは「玉篇」・「玄応音義」の反切・漢文注と同じ注が、『無名字書』に見られるという指摘に留めておくこととする。

本字書の作成時に「玉篇」・「玄応音義」を用いた可能性があることは、『新撰字鏡』においても同様の書が用いられていることを考えると、本邦における当時の字書編纂上の典拠のあり方として注目すべきことである。

3：『東宮切韻』との比較

3－1：『東宮切韻』の反切との比較

前項までで、『無名字書』の反切の多くが初期「切韻」由来のものであるが、漢文注については現存の「切韻」に典拠を求め得ないことを確認した。日本において利用されてきた韻書には様々なものがあるが、その中に初期「切韻」の反切を持つ本邦撰述の韻書がある。菅原是善撰『東宮切韻』である。

以下、『東宮切韻』と比較検討していくが、『東宮切韻』は逸書であるので、以下の比較は全て逸文によって行った。

3－1－1：『東宮切韻』逸文の反切との比較

『東宮切韻』は、当時、日本に将来していた韻書（十三種）・類書（一種）を集めた書である（上田（1956・1981））。次に『和漢年号字抄』からの『東宮切韻』逸文を一例示す（以下、□・傍線は筆者による）。

・「豐」東宮切韻云陸法言云敷隆反郭知玄云多釋氏云饒也茂盛也長孫訥言云豆之滿者從豆滿薛峋云承度居綺酒爵之器麻果云儀礼升堂設豊易云豊大也亦厚也又豊縣在徐州豊城縣在洪州孫愐云年之五穀時熟俗作豊字今案儀礼司射令弟子設豊侯鄭玄曰設豊所以承其爵也豊形似豆而卑也

このように、陸法言本に反切がある場合はそれを挙げ（傍線部。陸法言以外の反切を引くこともある）、反切に続いて諸家の注を列挙するという体裁である（□以下）。

次には、『無名字書』の反切のうち、これまでに指摘されている『東

宮切韻』の逸文と対校できる範囲についての調査結果を示す（具体例は稿末表参照）。

『東宮切韻』佚文の反切と対校可能な例	９９例
『東宮切韻』逸文の反切と同じ、または、字体の違いや誤写を正せば逸文と同じになる例	９２例（約９３％）

この調査により、『無名字書』と『東宮切韻』の反切は殆ど一致することが明らかとなった[12]。

『無名字書』には二〇〇〇例を超える反切が存するので、上記調査例だけで、本字書の全ての反切が『東宮切韻』由来であるとはいえない。また、『無名字書』と『東宮切韻』双方がそれぞれ初期の「切韻」を引いたために、結果として反切が殆ど同じになった可能性もある。

このことをふまえ、３・２以降において漢文注も含め、『無名字書』と『東宮切韻』の関係を検討していくこととする。

３・１・２：小韻代表字以外の反切

『東宮切韻』は陸法言本から反切を引くことが通例であるが、逸文から判断すると、反切が付される字は「切韻」の小韻代表字に限られる（木田（1998））。

しかし、『無名字書』の反切を見ると、小韻代表字でない字にも反切が付されることが珍しくない。それでは、『無名字書』のこの反切はどこから引かれたと考えるべきであろうか。『無名字書』に見られるこれらの反切も『東宮切韻』のものと見ることは可能であろうか。

木田氏の指摘するように、『東宮切韻』が小韻代表字にしか反切を付していないとすれば、それは現存の「切韻」と同じ形式であったと考えられる。このことは、逸文に見られる同音字数を示す注からも分かる。次に、同音字数の注の例を『和漢年号字抄』から示す（傍線部）。

・「初」東宮切韻云陸法言云楚魚反釈氏云始也作衣先因刀裁會意韓知十云舒麻果云老傳遂為母子如初孫愉云首也又萬物之始孫伷云説文從刀裁衣制作之始方言梁荅之間謂鼻為初今案毛詩二月初言傳曰初告朔日也」

『東宮切韻』の逸文にみられる同音字数の注は、全ての小韻代表字に付されている訳ではない。それは、引用される際に取り除き忘れられた、或いは、漢文注の一部と見誤られて残存したものと考えられる。

なぜなら、同音字数の注は小韻内の同じ音の字が何字存在するのかを示す注なのであるから、特定の字にだけ付しても用をなさない。従って、『東宮切韻』の注文にはもともと同音字数の注が存在したと見るのが自然であると考える。

筆者の調査によって、『無名字書』の掲出字のうち、非小韻代表字に付された反切も、初期「切韻」の反切であることが明らかになっているので、小韻代表字の反切と典拠は同じと考えられる。

そうすると、これらの反切（非小韻代表字の反切）も、漢文注を含めた検討が必要であるが、『無名字書』の作成者が「切韻」と同じ形式であった『東宮切韻』の小韻代表字を参照し、非小韻代表字にも反切を付したと見ることができるのである。

ではなぜ、他書に見られない、非小韻代表字に反切を付すという『東宮切韻』の利用の仕方がなされたのかというと、韻書と字書の形態の違いにその原因があると考えられる。

韻書は掲出字を韻分類しているので、これを部首分類の字書に引用するには、小韻を解体して分類しなければならない（小韻は音が同じものを並べており、部首は関係ない）。

しかし、小韻を解体してしまうと、小韻代表字を除き、同小韻内の字の音が分からなくなってしまうのである。

『無名字書』は、原則として掲出字に音を付すので、この方針を守るために、『東宮切韻』の小韻代表字の反切を参照し、同小韻内の非小韻代表字にも反切を付したと考えられるのである。

3・2：『東宮切韻』の漢文注との比較

先に、『無名字書』と『東宮切韻』の反切がほぼ同じであることを確認した。その関係を考えれば、『無名字書』の漢文注に『東宮切韻』の注が見られるはずである。以下、それと考えられる例を示す[13]。

3 オ「鴻」厚功反　犬鳫

『年号』東宮切韻云郭知玄云大鳫白色（略）

4 ウ「麟」力珍反　瑞獣

『年号』東宮切韻云（略）麻果云（略）瑞獣也（略）

10 オ「猨」韋元反　似猴而大

『五行』音袁猨猴郭知玄云似猴而大長臂本居不可地（略）

60 ウ「雲」王分反　山川氣也

『年号』東宮切韻云（略）郭知玄云山川氣云也（略）

『無名字書』と『東宮切韻』逸文の漢文注との比較ができる例は376例であったが、このうち、242例が全同または、一部同じ注であった（稿末表参照）。『東宮切韻』の逸文は、誤引・略引があるので（上田（1956・1984）、本来の『東宮切韻』にはこれよりも多くの同じ注が存したと考えられる。

『無名字書』の漢文注も『東宮切韻』の逸文と比較すると、本来の注から大幅に省略したものであることは明らかであり、互いに『東宮切韻』の注を略引している場合が多いので、両者に同じ注が見出しにくくなっているのである。その中で、242例が認められたことは偶然とは考えられず、引用関係があったとみるべきである[14]。

以下、3・2・1以降、この242例の中から例を具体的に見ていく。

3・2・1：『東宮切韻』所引王仁昫注との比較

『無名字書』に引かれている「切韻」が『東宮切韻』であるということの証左として、『東宮切韻』所引王仁昫注の義注を挙げる。

ここでは、『無名字書』の漢文注のうち王仁昫本由来と思われる注と、『東宮切韻』所引王仁昫注、王仁昫本「切韻」[15]とを比較することにより、『無名字書』の漢文注が『東宮切韻』からの孫引きの注（ここでは王仁昫注）であるのか、「切韻」（ここでは王仁昫本「切韻」）

からの直引の注であるのかを明らかにする。左はその全例である。

4ウ「麞」諸良反　似鹿無用而小

『五行』（略）王仁昫云似鹿无角而小性怯懼也

『王一』似鹿

『王二』丶鹿亦獐

『王三』似鹿而小

43オ「眷」居倦反　顧

『浄土』（略）王仁煦云反顧戀愛也

『王一』（欠）

『王二』亦奢八

『王三』戀愛十

59ウ「皇」胡光反　国名又大

『年号』（略）王煦云大也（略）

『王一』天謂大道色泊如

『王二』王

『王三』大謂大道泊如

以上から、『無名字書』の注が現存の「切韻」よりも『東宮切韻』の注に近いことが分かる。

3-2-2：『東宮切韻』所引曹憲注との比較

次に、『無名字書』が『東宮切韻』を引用した証左として、曹憲注が『無名字書』の漢文注に見られることを挙げる。曹憲注は、韻書ではなく類書と考えられ[16]、『東宮切韻』では、多くの場合、次の例のように陸法言に続く第二位の注となっている（傍線部）。

・『年号』「隆」東宮切韻云陸法言云力中反曹憲云豊大也案隆豊厚而大郭知玄云起釋氏云盛也高也又豊隆雷神（略）

左の例は、『無名字書』の漢文注における、『東宮切韻』所引曹憲注と同じ注の例である。

16ウ「蟲」直隆反　動物之有足

『五行』：直隆反曹憲云動物之有足者也（略）

34オ「姿」即脂反　態

『浄土』：東宮切韻曰曹憲云姿態也（略）

10ウ「龜」居追反　蟲又手物

『年号』：東宮切韻云陸法言云居追反曹憲云靈介蟲又手拘（略）

29オ「護」胡故[17]　救視

『年号』：東宮切韻云陸法言云胡故反曹憲云救視也（略）

『東宮切韻』所引曹憲注と同じ注が『無名字書』に見られる理由と

して、以下の三通りの可能性が考えられる。

① 曹憲が用いた漢籍と同じものを引用した（曹憲は種々の漢籍を引用し注を作成している）。

② 曹憲の著作である『桂苑珠叢抄』を直接引用した。

③ 曹憲注を何らかの書から孫引きした。

①を否定することは難しいので今おくとして、次の②の可能性であるが、『桂苑珠叢抄』は『東宮切韻』所引曹憲注に同文が見られるほかには殆ど引用例を見ない（注16参照）。従って、当時あまり用いられた書のようには思われない。

『無名字書』の注には、曹憲注と同じ注が先に挙げた例以外にも複数見られるので、『無名字書』が引用した書には、曹憲注がいくつも引用されていたことは間違いない。そのことと、『無名字書』における反切および漢文注の引用状況からいって、③が最も妥当であり、この曹憲注と同文の注は、『東宮切韻』からの孫引きであると考えるのである[18]。

3-2-3:『東宮切韻』所引今案部との比較

上田（1956）は、『東宮切韻』の諸家「切韻」注のあとに、「今案―」という形式を持つ今案部が存在し、それは主に「玉篇」の注によるものであるとした[19]。その後、上田（1976）は当該部に顔師古注が見られることや「正借音」をいう注の存在などから、さらに具体的に、今案部の典拠は上元本『玉篇』を主資料とした一字書によるものかとした。

それに対して、井野口（1994）は現存の「玉篇」および、諸書に引用された「玉篇」逸文を用いて上元本『玉篇』の注を考証し、これには詳注がなかったと考え、今案部の注は原本系「玉篇」のものではないかとした。

今案部の注の典拠には諸説あるが、「玉篇」の注に基づいているということは確かである。次に、『和漢年号字抄』によって、『東宮切韻』の今案部の例を挙げる（傍線部）。

・徽　東宮切韻云長孫訥言云美又琴上脩絃處韓知十云三糾繩薛峋云旗名祝尚丘云纏繫也又香袋又琴絃取聲處孫愐云敬孫伷云邪幅也今案毛詩太姒嗣音徽傳曰徽善也淮南子訓忘一徽而威王終夕悲許叔重曰皷琴脩絃謂之徽

『無名字書』には、この『東宮切韻』の今案部と同じ注が五例存する（傍線部）。

4ウ「麗」古牙反　雌鹿

『年号』：東宮切韻云（略）今案顧野王案雌鹿也

28ウ「視」承旨反　比也看也

『年号』：東宮切韻云陸法言云承旨反（略）今案（略）鄭玄曰視猶比也

30オ「調」徒聊反　和合也選也

『年号』：東宮切韻云（略）今案（略）鄭玄曰調猶合和也（略）
如淳曰調選也又借音張流反（略）

33オ「如」汝魚反　往也而也似也二月也
『年号』：東宮切韻云陸法言云汝魚反（略）孫愐云似也（略）
今案（略）孔曰如往也（略）杜預曰如而也（略）

74オ「虞」語倶反　備
『五行』：語倶反（略）賈逵曰虞備也

今案部は、大部分が「玉篇」由来の注であると考えられるので、『無名字書』の作成者が『東宮切韻』ではなく、「玉篇」を引用したと見ることもできなくは無い。実際、上の五字の漢文注の中には、『篆隷万象名義』や『宋本玉篇』と同じ注が存する。

しかし、「麗」「視」「如」「虞」字の『無名字書』に付された反切をみると、『篆隷万象名義』や『宋本玉篇』には見られない、明らかに「切韻」系の反切が付されているのである（「調」字の反切に関しては、「切韻」だけでなく『宋本玉篇』も同じ反切となっている）。

このことから、『無名字書』に見られる今案部と同じ注は、（「調」字を保留するが）反切・漢文注の特徴から、『東宮切韻』由来のものである可能性が非常に高いと考えるのである。

4：『無名字書』と『東宮切韻』の注の開き

前項までで、『無名字書』に『東宮切韻』と同じ注が見られることを示した。以上までの徴証から、『無名字書』は『東宮切韻』を引用していることは疑いないと思われる。

しかし、『無名字書』は、掲出字すべてに必ず『東宮切韻』の反切と漢文注を付すわけではない。逸文によると、反切・漢文注が存在することが明らかな字についても、『無名字書』にそれらが付されていない例がある。次にその例を挙げる。

46ウ「黄」皇音　地之色
『年号』「黄」東宮切韻云陸法言云胡光反（略）孫愐云説文地之色也（略）

77ウ「齊」徂嵇反　トライ　ツクシ　ヒトシ　スヘ　イシス
『年号』「齊」東宮切韻云陸法言云徂嵇反郭知玄云整古國名在青州薛峋云好也又（略）

点線部の注などは、掲出字に付されてもよいと考えられるが、これらは付されていない。

なぜ、『無名字書』の注がこのように不揃いになったのかは不明であるが、右のような例から考えると、『無名字書』の作成者は注を付す際に、『東宮切韻』の注文すべてを必要としなかった、若しくは、『無名字書』が引用した書は、既に『東宮切韻』を略引したものであった可能性を考えなければならないであろう。

5：まとめ

以上、本稿では、『無名字書』・『東宮切韻』二書間の引用関係を指摘することによって、『無名字書』の注文に、『東宮切韻』の新たな逸文を見出だした。そして、それらと既存の逸文を用いて『無名字書』の注の典拠と、『東宮切韻』の利用実態の一端を示した。

『東宮切韻』は、例えば『和名類聚抄』・『法華経釈文』・『類聚名義抄』などに、主に漢文注を付す為に利用されており、当時、権威ある字書として利用されていたと考えられる。なぜ、『東宮切韻』がこのような利用のされ方をしたのかというと、掲出字に対し、漢文による豊富な注を持つ為である。

しかし、本稿で述べたように、『無名字書』においては漢文注だけでなく反切についても『東宮切韻』を利用したと考えられる例が見られる。このことは、『東宮切韻』が漢文注を付すための字書として参照されただけでなく、韻書ならではの機能（音を示す機能）を有する書としても利用されたことを示している。

つまり、『東宮切韻』は韻書としてそのまま利用することが可能な書であったということになり、このことは、すでに逸書となってしまった『東宮切韻』の形態を知る上でも意義をもっている。

平安・鎌倉期の古辞書には、多くの切韻系韻書が利用されている。そのような中で、何故、『東宮切韻』が選択され、引用されたのかということを、当時の古辞書における韻書受容の問題として更に検討しなければならない。

なぜなら、辞書の形態によって、同じ先行書（今回は『東宮切韻』）を引用するにしても、引用態度は様々に異なっているからである。

今後は、『無名字書』に見られるこのような韻書の受容が、当時の古辞書における注釈のありかたにおいて、どのような意味をもつものか、さらに検討していきたいと考える。

また、今回の考察によって、『東宮切韻』逸文の考証のさらなる必要性を感じた。『東宮切韻』については、すでに先学が詳論を展開しているが、『東宮切韻』の具体的な所拠「切韻」など、未だ不明な点が多い。それを明らかにするために、『無名字書』の注文（反切・漢文注双方とも）が有力な手掛かりになると思われる[20]。

以上、本稿では『無名字書』の反切と漢文注について考察した。今回述べたことは、逸文に拠らざるをえないので、一部の注の比較により、全体を推すこととなった。『東宮切韻』の逸文がもっと発見されれば、今回の論はさらにはっきりするであろう。

今後は、逸文と対校できない箇所についても、その注の性質を探ることにより、本論の支えを見出だしていきたいと考える[21]。

［注］

1　本稿では、墨付き丁数に従って用例の所在を示す。

2　欄外にも掲出字があることがあるが、これらと本文との関係は今のところ不明である。また、欄外字の注は仮名のみである。欄外字は総掲出字数に加えていない。

3　典拠・声調を示すと思われる注は以下の通り。30オ「謙」字に「玉篇」と見える。31オ「讎」市流反平・48ウ「劾」胡愛反去・49ウ「離」呂移反平。また、掲出字一字につき、二つの反切が付されることがあるが、誤写であることが多い。

4　橋本（1924）は、東大本も謄写本とする。東大本は関東大震災により焼失。また、月本雅幸氏のご教示によれば、東大国語研究室蔵の『図書検印録』に、「字鏡抄　一冊」一円五〇銭　とあり、当時、室町期の写本であっても一円前後で購入されているので、東大本が原本であった可能性もあるとのことである。

5 「S2071」。以下、「切韻」の略称は『十韻彙編』に従う。『切三』は加字加訓の少ない初期の「切韻」である（上田（1973））。

6 『切三』と同じ反切用字を用いているので古い反切、用いられていないので新しい反切であるとは必ずしも言えない。逆に陸法言原撰本に無かったかと思われるような例もあるので注意が必要である。

7 『切三』との対校については、『無名字書』に誤写（掲出字と反切が正しく対応していないなど）があると考えられる場合、たとえ当該反切が『切三』と同じ反切であっても、今回の調査ではこれを除き、確実な例を挙げた。誤写等を正せば、数は変動すると思われる。『無名字書』の反切については、稿を改めて全例を示したい。

8 公表を前提としない書物については避諱が行われない場合もあるが、「切韻」では避諱が見られる。

9 8オ「狩」治与反　上記反切は「玉篇」系の反切と考えられる為、考察から外す。

10 太宗（李世民）、高宗（李治）の在位年はそれぞれ、626－649年・649－683年である。

11 「惻」字については、『名義抄』に「東云愴-悲愍也悲傷也中心痛也痛也憂也懼也」とあるので、漢文注に関しては『東宮切韻』由来の可能性がある。また、「捫」字の漢文注の「摸」は、原本系「玉篇」にも見える注だが、反切は「玉篇」と合わない。

12 調査の結果、7つの異例が確認された。この例の中には誤写と思われる例も含まれているが、反切用字が異なっていても、同音であるものもある。これらの反切についてはなお考えたい。

13 『和漢年号字抄』・『五行大義』・『浄土三部経音義集』をそれぞれ、『年号』・『五行』・『浄土』と略して示す（逸文の略称は稿末参照）。

14 漢文注が合わない例がやや多くなっているのは、本文でも述べたように、『東宮切韻』の逸文が基本的に全文を引用していないことに原因がある。今回は、逸文を持つ資料が『東宮切韻』の注全体を引用していないからといって、比較対象から外すことはしなかった。

15 「P2011」『王一』・「内府本刊謬補缺切韻」『王二』・「全本王仁昫刊謬補缺切韻」『王三』。

16 上田（1981）は、『東宮切韻』所引曹憲注の典拠を『桂苑珠叢抄』とする。『桂苑珠叢抄』は、巻数から判断するに『桂苑珠叢』を簡略化したものと考えられるもので、『東宮切韻』の曹憲注以外にはその逸文がほとんど見えず、いまのところ、上田氏の報告による『和漢朗詠註抄』の一条のみのようである。

17 『無名字書』は反切の「反」字を落としている例がある。

18 また、『無名字書』には『桂苑珠叢』の逸文（『玉函山房輯佚書』による）と同文もしくはほぼ同文の漢文注を持つ字が三例あり（「挹」・「覦」・「忖」）、これらも『東宮切韻』所引曹憲注由来の注である可能性がある。

19 上田（1984）『切韻逸文の研究』は、今案部が「切韻」でないことから、これを『東宮切韻』の逸文から除き、不採録としている。

20 これまでに指摘されてきた『東宮切韻』の逸文には反切の用例が少なく、その所拠「切韻」の推定は困難であった。しかし、『無名字書』と『東宮切韻』の関係が明らかとなった今、本字書によって『東宮切韻』の反切の用例を増やして考察できるようになった。また、現存の「切韻」諸本研究については、上田氏の論考に加えて、近年、『敦煌經部文獻合集』や鈴木慎吾氏の諸論考が出ている（『開篇』23・28・29・31。これらは上田氏未見の「切韻」についても論じており、「切韻」諸本研究の基礎となるものである）。今後、これらも用いて『東宮切韻』の所拠本について考察していきたいと考える。

21 また、今回は反切と仮名音注等との関係についてはふれることができなかった。本字書の仮名音注は、大部分の掲出字に付されているが、それが呉音によるものか、漢音によるものか未だはっきりしない。これらについては、『無名字書』と関係のある他の字書も含めて今後調査していく。

［参考文献］
・井野口孝（1994）「孫強「上元本玉篇」をめぐって――『東宮切韻』今案部と原本系『玉篇』覚書――」『国文学』34、愛知大学
・上田正（1956）「東宮切韻論考」『国語学』24、国語学会
・上田正（1973）『切韻残巻諸本補正』東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター
・上田正（1975）『切韻諸本反切総覧』均社
・上田正（1976）「平安初期に存した一字書」『訓点語と訓点資料』57、訓点語学会
・上田正（1981）「「東宮切韻」所引「曹憲」について」『訓点語と訓点資料』66、訓点語学会
・上田正（1984）『切韻逸文の研究』汲古書院
・岡田希雄（1927）「六帖字書篇立と類聚名義抄との関係」『国史と国文』（『類聚名義抄の研究』一條書房（1944）に再録）
・川瀬一馬（1955：1986 増訂）『増訂古辞書の研究』雄松堂出版
・木田章義（1998）「『玉篇』とその周辺」『訓点語と訓点資料』記念特輯、訓点語学会
・貞苅伊徳（1966）「世尊寺本字鏡について（補稿）――京大本字鏡抄無名字書との関係――」『訓点語と訓点資料』32、訓点語学会（『新撰字鏡の研究』汲古書院（1998）に再録）
・橋本進吉（1924）「国語研究室焼失主要書目録」『国語と国文学』1――7

［使用文献］
・『医心方』現代思潮社（1978）
・『一切経音義』商務印書館（1936）
・『園太暦』太洋社（1936）
・『勘仲記』臨川書店（1965）
・『玉函山房輯佚書』嫏嬛館（1883）
・『倶舎論音義』思文閣出版（西崎亨『倶舎論音義の研究』2010）
・『弘決外典鈔』春秋社（天台宗典編纂所編『続天台宗全書』1989）
・『校正宋本廣韻附索引』藝文印書館（2007 十二刷）
・『五行大義』汲古書院（古典研究會編『五行大義』古典研究會叢書漢籍之部7・8 1989-1990）
・『玉葉』国書刊行会（1906-1907）
・『三教指帰注』（覺明記・寛永六年刊）帝塚山学院大学図書館蔵
・『三教指帰註抄』高野山大学出版部（續真言宗全書刊行會編『真言宗全書40』2004（(1936) の再復刊））
・『字鏡抄無名字書』（明治四十四年写）京都大学大学院文学研究科図書館蔵
・『悉曇字記抄』（上田（1984）『切韻逸文の研究』による）
・『十韻彙編』台湾学生書局（劉復等編 1973 三刷）
・『諸道勘文』続群書類従完成会（続群書類従完成会編『群書類従第二十六輯』1983 三版）
・『政事要略』吉川弘文館（1972）
・『箋注和名類聚抄』臨川書店（京都大学文学部国語学国文学研究室編『諸本集成和名類聚抄』1977 二刷）
・『大日経疏演奥抄』大蔵経刊行会（『大正新修大蔵経』五十七 1983）
・『図書寮本類聚名義抄』勉誠社（1969）
・『相好文字抄』（上田（1984）『切韻逸文の研究』による）

・『宋本玉篇』北京市中国書店（1983 二刷）
・『浄土三部経音義集』大正一切經刊行會（高楠順次郎編『大正新脩大藏經』1929-1931）
・『篆隷万象名義』東京大学出版会（高山寺典籍文書総合調査団編『高山寺古辞書資料第一』1977）
・『唐五代韻書集存』中華書局（周祖謨編 2005 二刷）
・『唐寫全本王仁昫刊謬補缺切韻校箋』香港中文大學（龍宇純編 1968）
・『年中行事抄』續群書類從完成會（續群書類從完成會編『續羣書類從第拾輯上』1934 五版）
・『秘藏宝鑰勘註』高野山大学出版部（續真言宗全書刊行會編『真言宗全書 11』2004（(1936) の復刊））
・『秘藏宝鑰鈔』高野山大学出版部（續真言宗全書刊行會編『真言宗全書 11』2004（(1936) の復刊））
・『妙法蓮華經釋文』汲古書院（宮澤俊雅・吉田金彦編『古辭書音義集成 4　妙法蓮華經釋文』1979）
・『毛詩延文鈔本』北京図書館出版社（島田翰『漢籍善本考』2003（『古文舊書考（1905）の復刊）
・『和漢年号字抄』（文明十一年写）前田育徳会尊経閣文庫蔵

［付記］
本稿は、第百十一回訓点語学会研究発表会（於：東京大学山上会館）での発表原稿に加筆修正を加えたものです。調査資料閲覧に際して、京都大学大学院文学研究科図書館、帝塚山学院大学図書館および、前田育徳会尊経閣文庫の担当の方に格別のご便宜をおはからい頂きましたことに感謝申し上げます。
本稿をなすまでに、池田証寿先生、岡島昭浩先生、岸本恵実先生、金水敏先生、佐々木勇先生、鈴木慎吾先生、月本雅幸先生、宮澤俊雅先生、矢田勉先生をはじめ、諸先生方から御教授を賜りました。また、山本真吾先生と査読を担当して下さった先生方から、『無名字書』と各文献との対校による詳細な御指摘や論の進め方などについて多くの御意見を頂戴いたしました。記して感謝申し上げます。

［付表凡例］字体等は出来る限り各文献に見られるままにした。
第一欄：本文所属韻（分韻は『広韻』による）
第二欄：『無名字書』での所在
第三欄：本文
第四欄：『無名字書』の反切（―は『無名字書』に反切が無いことを示す）
第五欄：『無名字書』の漢文注（■は虫損等により判読不可、―は漢文注が存在しないことを示す）

第六欄：『東宮切韻』逸文の典拠（略称は稿末参照）

第七欄：『東宮切韻』逸文にふされた反切（『東宮切韻』のものと思われないものや、又切は取らない）

第八欄：『無名字書』と『東宮切韻』逸文の反切との同不同（○は同じであること（字体の違いや字の一部脱落程度のものはここに含める）、△は誤写。略引により一部合わないこと、×は異なっている、若しくは、同様の注が見えないこと、―は『無名字書』か逸文に注が存在しない為、比較できないことを示す）

第九欄：『東宮切韻』逸文に見られる漢文注の摘記（■は虫損等により判読不可、―は『無名字書』に漢文注がない、若しくは、逸文に比較可能な注が存在しないことを示す）

第十欄：『無名字書』と『東宮切韻』逸文の漢文注との同不同（記号は第八欄と同じだが、×とする場合でも、『東宮切韻』逸文に、『無名字書』の注と比較的近い注がある場合、漢文注を示すことがある）

第十一欄：備考

［付表略称］　略称は、上田（1984）に従った。

・『医心方』（医心）・『園太暦』（園太）・『勘仲記』（勘仲）・『倶舎論音義』（倶舎）・『弘決外典鈔』（弘決）・『五行大義』（五行）・『玉葉』（玉葉）・『三教指帰注（覺明記）』（三覚）・『三教指帰註抄』（三註）・『悉曇字記抄』（悉字）・『諸道勘文』（諸道）・『政事要略』（政事）・『箋注和名類聚抄』（和名）・『大日経疏演奥抄』（演奥）・『図書寮本類聚名義抄』（名義）・『相好文字抄』（相好）・『浄土三部経音義集』（浄土）・『年中行事抄』（年中）・『秘蔵宝鑰勘註』（勘註）・『秘蔵宝鑰鈔』（秘蔵）・『妙法蓮華經釋文』（法釈）・『毛詩延文鈔本』（毛詩）・『和漢年号字抄』（年号）

［なかの　なおき、大阪大学大学院学生］

（平成二十七年一月九日受理）

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
1	東	3オ	鴻	厚功反	犬鴈	年号	—	—	郭知玄云大鴈白色	○	
2	東	4オ	雄	羽隆反	又果勝	法釈	—	—	—	×	
3	東	16ウ	蟲	直隆反	動物之有足	五行	直隆反	○	曹憲云動物之有足者也	○	
4	東	19ウ	聰	倉仁反	耳遠察	倶舎	—	—	小切一云耳遠察也	○	
5	東	21オ	躬	居隆反	身也	法釈	—	—	曹憲云身也	○	
6	東	61ウ	穹	吉隆反	高也	五行	—	—	孫愐云高也	○	
7	東	63ウ	空	苦紅反	虚也	法釈	—	—	釋氏云虚也	○	
8	冬	63ウ	宗	作　反	本也	法釈	—	—	—	×	反切下字脱落か
9	鐘	57オ	從	疾容反	順也逆也	法釈	—	—	—	×	
10	鐘	62ウ	容	餘封反	受也官也	法釈	—	—	郭知玄云一受也釋氏云含一也	△	
11	鐘	70オ	鳴	魚容反	衆口止視皃	秘蔵	魚容反	○	衆口仰向	△	
12	支	5ウ	馳	直知反	大走馬	法釈	—	—	郭知玄云大走也	△	
13	支	5ウ	驪	呂賈反	千里行	五行	—	—	—	×	
14	支	53オ	跂	渠羈反	登　乗足坐履	名義	—	—	東云（略）登也	△	
15	支	63オ	宜	—	義也善也事也	法釈	—	—	曹憲云善也	△	
16	支	67オ	卑	必至反	賜也	法釈	—	—	—	×	
17	脂	3オ	鵨	昌脂反	𢦏	法釈	—	—	孫愐云一名蔦也（略）	○	
18	脂	10ウ	龜	居追反	蟲又手物	年号	居追反	○	曹憲云靈介蟲又手拘也	○	
19	脂	21ウ	悲	府眉反	痛泣	浄土	府眉反	○	郭知玄云悲痛泣也	○	
20	脂	29オ	誰	視焦反	疑問	法釈	—	—	—	×	
21	脂	34オ	姿	即脂反	態	浄土	—	—	曹憲云姿態也案姿美態也	○	
22	脂	64ウ	祁	渠脂反	興兩也安徐自殷類	名義	—	—	—	×	
23	脂	71オ	唯	以隹反	獨	法釈	—	—	釋氏云獨也一也	○	
24	之	1ウ	治	直之	理也	年号	直之切	○	薛峋云脩故也（略）理也（略）	○	反字無
25	之	25ウ	怡	与之反	悦楽	相好	—	—	切韻云和也悦也	△	
26	之	34ウ	持	直之反	捧	法釈	—	—	—	×	
27	之	47オ	疑	語基反	未■也	浄土	—	—	—	×	
28	之	65オ	禧	市之反	喜而交福	年号	—	—	薛峋云喜而受	△	
29	之	65ウ	祺	渠之反	求子祭	圜太	巨基反	×	—	×	上田（1984）、諸本は渠之とする
30	之	58オ	徽	許歸反	條茲慮	年号	—	—	長孫訥言云美又琴上脩絃處	△	
31	之	76ウ	希	虚機反	窄也又冀慕	法釈	—	—	曹憲云罕也	△	
32	之	77オ	非	匪肥反	過也又木是	法釈	—	—	釋氏云不是也	△	
33	微	54ウ	衣	於機反	着也	法釈	—	—	—	×	
34	微	58オ	微	—	少也无也	五行	無非反	—	麻果云（略）無也孫愐云劣也薄也少也	○	
35	魚	15ウ	蜍	署魚反	蟾蜍蛛	五行	暑魚反	△	釋氏云蟾蜍黽蟲	×	
36	魚	33オ	如	汝魚反	往也而也似也二月也	年号	汝魚反	○	孫愐云似也（略）今案（略）孔曰如往也（略）杜預曰如而也（略）	△	
37	魚	40ウ	於	央魚反	于也發言之辞	法釈	—	—	釋氏云于也	△	
38	魚	53オ	躇	直魚反	行不躊進	名義	—	—	東云（略）行不進也猶徘回也	△	
39	魚	57オ	徐	以魚反	遲也	法釈	—	—	長孫訥言云遲也謂舒緩之皃也	○	
40	魚	65ウ	初	楚魚反	始也	年号	楚魚反	○	釈氏云始也（略）	○	
41	魚	72ウ	閭	力魚反	里門	五行	—	—	釋氏云里門周礼五家為比五比為閭也侶也	○	
42	魚	74オ	虚	許魚反	不實又星名	法釈	—	—	孫愐云空而不實也	△	
43	虞	5オ	貙	勅俱反	獸似狸	五行	勅俱反	○	陸法言云（略）獸名郭知玄云似狸而大能化為人	○	
44	虞	7ウ	拘	舉隅反	執也	五行	舉隅反	○	釋氏云聯也止也執也	○	
45	虞	18ウ	瞿	其俱反	儉	五行	—	—	—	×	
46	虞	21ウ	愚	語俱反	頑	浄土	—	—	孫愐云癡也惷也又昧而無知也囂也頑也	○	
47	虞	29ウ	諛	羊朱反	諂	浄土	—	—	麻果云諛諂也	△	
48	虞	54オ	趺	甫于反	交足坐	法釈	—	—	釋氏云甲一即交足坐也	○	
49	虞	74オ	虞	語俱反	備	五行	語俱反	○	賈逵曰虞備也	○	
50	模	9ウ	狐	戸吳反	妓獸	法釈	—	—	—	×	
						和名	—	—	—		
51	模	33オ	奴	乃胡反	男僕從使	法釈	—	—	—	×	
52	模	71ウ	吾	吾胡反	我又全官名	法釈	—	—	孫伾云我也	△	
53	齊	77ウ	齊	徂禮反	—	年号	徂禮反	○	—	—	
54	皆	5オ	豺	士皆反	—	五行	士諧反	△	—	—	
55	皆	30ウ	諧	戸皆反	又能戲	名義	—	—	—	×	
56	咍	13オ	財	昨来反	貨物	法釈	—	—	麻果云貨物也	○	

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
57	咍	４３ウ	哉	祖才反	辞之助	法釈	—	—	—	×	
						演奥	—	—	—		
58	咍	５６ウ	哀	烏開反	悲也	法釈	—	—	—	×	
59	咍	６９オ	咳	胡来反	小兒笑	五行	—	—	陸法言云小児笑	○	
60	咍	７２ウ	開	苦哀反	發也	年号	苦哀反	△	釋氏云張也發也亦能闓	○	
61	真	４ウ	麟	力珍反	瑞獸	年号	—	—	麻果云角端有肉狼題馬蹄有五采在腹下瑞獸也	○	
62	真	１３ウ	貧	符巾反	无財	法釈	—	—	孫佃云无財也	○	
63	真	１８オ	瞋	昌隣反	怒也	法釈	—	—	陸法言云怒也	○	
64	真	２１オ	身	書隣反	形又我也	法釈	—	—	—	×	
65	真	４５ウ	真	職隣反	不虚做	年号	職隣反	○	釋氏云實也不虚叚也	△	
66	寘	６３ウ	寅	余真反	平旦時	五行	—	—	—	×	
67	諄	４５ウ	勻	羊倫反	遍也	五行	—	—	—	×	
68	文	１６オ	蚊	武分反	飛虫夏夜嗟人	五行	—	—	小飛虫夏月夜嗟人	△	
69	文	６０ウ	雲	王分反	山川氣也	年号	王分反	○	郭知玄云山川氣云也	△	
70	元	１０オ	猨	韋元反	似猴而大	五行	—	—	郭知玄云似猴而大長臂木居不可地	○	
71	元	２８ウ	言	語軒反	■	玉葉	語軒反	○	—	—	
72	魂	１６ウ	魂	戸昆反	霊也	浄土	戸昆反	○	釋氏云靈也	○	
73	魂	４２オ	敦	都昆反	篤也	園太	都昆反	○	—	×	
74	魂	７２オ	門	莫奔反	順也地也戸也	法釈	—	—	—	×	
75	痕	７１ウ	呑	味根反	完 呣 物	相好	—	—	—	×	
76	寒	４８ウ	丹	都寒反	浅赤色也	法釈	—	—	孫愐云赤色也	△	
77	寒	６３ウ	安	烏寒反	何静置	年号	烏寒反	○	—	×	
78	寒	７１ウ	單	都寒反	不夾又孤也	法釈	—	—	—	×	
79	桓	２８オ	觀	古丸反	視也示也	年号	—	—	陸法言云視（略）薛峋云示也（略）曹憲云（略）曠視也（略）韓知十云示也又視也	○	
80	桓	２９オ	諠	虚安反	言語訒	名義	—	—	—	×	
81	桓	６２オ	寛	苦官反	含容	年号	苦官反	○	孫愐云安也泰也令容也	△	
82	桓	６３ウ	官	古丸反	吏案事	浄土	—	—	—	×	
83	桓	６４オ	冠	古丸反	首	法釈	—	—	陸法言云首飾也	△	
84	山	３５ウ	慳	苦閑反	擅也惜也	法釈	—	—	—	×	
85	山	４６オ	艱	古閑反	險難	法釈	—	—	郭知玄云一難也	△	
86	山	７２ウ	閑	胡山反	窘也攔也	毛詩	—	—	麻果曰欄也	△	
87	先	８オ	牽	古賢反	引也	法釈	—	—	釋氏云引挽也	△	
88	先	２１ウ	懸	胡涓反	遠也	法釈	—	—	祝尚丘云遙遠也	△	
89	仙	３ウ	鳶	与專反	鵄	五行	与專反	○	郭知玄云似鷹而大善高飛一作説文 頸 鳥也 貳	△	
90	仙	１１オ	鮮	相然反	生魚　善	相好	—	—	孫愐云潔也善也	△	
91	仙	２０オ	聯	力延反	—	悉字	力延反	○	—	—	
92	仙	２１ウ	愆	去乾反	過	名義	—	—	東云罪也案凡物差過亦謂之（略）	△	
93	仙	２８ウ	詮	此縁反	具也	五行	此縁反	○	薛峋云具也具説事理曰詮	○	
94	仙	５９ウ	泉	聚縁反	水月出	法釈	—	—	釋氏云水自出也	○	
95	仙	６１オ	穿	昌縁反	又通也	三覚	—	—	通也達也	○	
96	仙	６２ウ	宣	須縁反	—	年号	須縁反	○	—	—	
97	仙	６３ウ	褰	去乾反	擧衣	名義	—	—	東云擧衣也搖口侯衣縮不伸也	○	
98	蕭	２ウ	鵰	都聊反	鶚鳥	法釈	—	—	陸法言云鶚鳥別名也	○	
99	蕭	３ウ	梟	古堯反	不孝鳥	五行	古堯反	○	郭知玄曰大逆不孝鳥（略）麻果云説文食母食又不孝鳥也（略）	○	
100	蕭	３０オ	調	徒聊反	和合也選也	年号	—	—	今案（略）鄭玄曰調猶合和也（略）如淳曰調選也	○	
101	蕭	３８オ	挑	吐彫反	撥	五行	吐彫反	○	陸法言曰挑撥	○	
102	肴	１４ウ	蛟	古肴反	龍属	五行	—	—	麻果云説文龍属也麻果云説文龍属也池魚滿二千六百（略）	○	
103	肴	４３オ	爻	胡兼反	易卦	弘決	—	—	—	×	
104	豪	１０ウ	鼇	五勞反	—	五行	五勞反	○	—	—	
105	豪	６２ウ	牢	盧刀反	堅固也	法釈	—	—	釋氏云堅周也（略）	△	
106	歌	１ウ	河	胡哥反	大該謂之	年号	—	—	麻果云尔雅河万里（略）方言冀州凡水小大皆謂之河也（略）	△	
107	歌	１０ウ	鼉	徒何反	蜒類皮可以為皷	五行	徒何反	○	—	×	
108	歌	５３ウ	蹉	—	蹉跎	名義	—	—	東云跌也——（蹉跎）跌也（略）	○	

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
109	戈	２９オ	訛	五和反	謬	名義	—	—	東云謬也 紋 言也人之－言也語不定也	○	
110	麻	４ウ	麗	古牙反	雌鹿	年号	—	—	今案顧野王案雌鹿也	○	
111	麻	１９ウ	耶	以遮反	父也	名義	—	—	東云－父孃母	△	
112	麻	６３ウ	家	古牙反	宅居	法釈	—	—	—	×	
113	陽	４ウ	麞	諸良反	似鹿無用而小	五行	諸良反	○	王仁昫云似鹿无角而小性怯懼也	○	
114	陽	８オ	羊	与章反	羔	法釈	—	—	郭知玄云羔－也	○	
115	陽	９オ	狂	渠王反	失常性	五行	渠王反	○	韓知十云失常性	○	
116	陽	３３ウ	娘	女良反	美女	名義	—	—	—	×	
117	陽	４４オ	常	時羊反	—	年号	時羊反	○	—	—	
118	陽	４４オ	裳	時羊反	衣下皃	名義	—	—	東云在外曰衣在内曰－上曰衣下曰－常－二字説文義同今人行用有別	△	
119	陽	４７ウ	章	諸良反	書也文彩又綴辞	年号	諸良反	○	郭知玄云文彩人詞章（略）薛峋云綴辞（略）	△	
120	陽	５６ウ	裝	側羊反	行也	名義	—	—	東云練束也行具也修理也裹也－束也甤衣也	△	
121	陽	５６ウ	襄	息郎反	上賀也	名義	—	—	—	×	
122	陽	６４ウ	祥	似羊反	吉	年号	—	—	郭知玄曰吉瑞又巻耳（略）麻果云（略）祥吉也（略）	○	
123	唐	１３オ	贓	則郎反	以罪徴財	五行	—	—	武玄之曰以罪徴財	○	
124	唐	１５ウ	蝗	胡光反	食稲虫交虫	五行	—	—	東宮切韻云蝗倉禾黄虫蝗魚化作也小曰 蝗 又或作 蟥 云也	△	
125	唐	２４オ	惶	胡光反	悚懼	法釈	—	—	麻果云悚懼也	○	
126	唐	２５ウ	忙	莫郎反	心有所處	名義	莫郎反	○	東云（略）怖也迫也心有所處也	○	
127	唐	４４オ	當	—	甲底也	法釈	—	—	—	×	
128	唐	４６ウ	黄	—	地之色	年号	胡光反	—	孫愐云説文地之色也（略）	○	
129	唐	４８オ	光	古皇反	明也又寵又花	年号	古皇反	○	郭知言云明也韓知十云寵又大（略）	△	
130	唐	５９ウ	皇	胡光反	国名又大	年号	—	—	郭知玄云國君曰皇帝（略）麻果云（略）皇大也（略）王煦云大也（略）	△	
131	唐	７４ウ	唐	徒郎反	国名大也道也	年号	徒郎反	○	釈氏云空也大也（略）韓知十云國名麻果云虚也埤蒼庭也道也亦商姓	○	
132	庚	３オ	鳴	武兵反	多聲	法釈	—	—	—	×	
133	庚	７オ	驚	舉卿反	心舊動	法釈	—	—	孫愐云心驚動也	○	
134	庚	１８ウ	盲	武庚反	清視无光	浄土	武庚反	○	孫愐云目清視無光	○	
135	庚	３５オ	横	胡盲反	東西縱恣度	法釈	—	—	—	×	
136	庚	３５オ	撜	犖鈴	—	五行	—	—	—	—	反字無　犖登反か
137	耕	３オ	鸚	烏茎反	鵡	浄土	—	—	郭知玄云鸚鵡（略）釋氏云鸚鵡（略）麻果云鸚鵡（略）孫愐云鸚鵡（略）	○	
138	清	１３ウ	𥈭	陟盈反	正也當也	年号	陟盈反	○	郭知玄云正也忠也	△	
139	清	１７ウ	睛	子情反	日中殊子也 昭	相好	—	—	—	×	
140	清	２０オ	聲	書盈反	音	法釈	—	—	陸法言云音響也（略）	△	
141	清	２６オ	惸	渠營反	无兄弟	名義	—	—	東云無兄弟也	○	
142	清	２６オ	情	疾盈反	實	法釈	—	—	—	×	
143	清	７２オ	名	武并反	貴也明也至芳也命也	浄土	—	—	郭知玄云名所以名質也（略）武玄之曰名明也以明其質（略）	△	
144	青	１６ウ	蛉	郎丁反	青虫也	五行	—	—	陸法言云蝦蛉小青蟲	○	
145	青	２０オ	聽	他丁反	許也又耳察	法釈	—	—	郭知玄云許也	△	
146	青	６０ウ	靈	郎丁反	神明ノ類	年号	郎丁反	○	薛峋云凡有神明之類（略）	○	
147	青	６２オ	寧	奴丁反	安也	年号	—	—	孫愐云説文安也（略）	○	
148	蒸	８ウ	承	署陵反	—	年号	署陵反	○	—	—	
149	尤	１５ウ	蜉	—	朝生夕死　虫也	五行	—	—	—	×	蝣字の注に「朝生夕死」とあり
150	尤	１５ウ	蝣	—	蜉也	五行	—	—	—	×	
151	尤	４７オ	求	巨鳩反	臺	法釈	—	—	孫愐云覓也	△	
152	尤	５３オ	疇	直留反	不進之皃	名義	—	—	東云行不進也猶徘回也	△	
153	侯	３３ウ	婁	落侯反	星名	五行	—	—	陸法言曰星名	○	
154	侵	２１ウ	心	息林反	人身最霊者	五行	—	—	郭知玄曰人身之最霊者也	△	
155	侵	２６オ	愔	於淫反	静也	名義	—	—	—	×	
156	侵	３２ウ	婬	餘心反	私通乱也歩也	浄土	—	—	薛峋云私通也謂姦私也	△	
157	覃	２９ウ	譚	徒含反	誘大	名義	—	—	—	×	
158	談	２４オ	慚	—	恥人天故	法釈	—	—	—	×	

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
159	談	３４オ	擔	都甘反	負具	法釈	—	—	陸法言云一負也	×	
160	鹽	１９オ	賺	諸炎反	窺	法釈	—	—	—	×	
161	添	２７ウ	謙	苦廉反	卑　遜	法釈	—	—	孫愐云卑而不踰曰一也	△	
162	咸	２９オ	讒	士咸反	以言毀人	浄土	—	—	—	×	
163	咸銜	３６ウ	攙	—	刺也	五行	士咸反	—	—	×	
						五行	鋤銜反	—	—		
						諸道	—	—	—		
164	凡	４２オ	凡	復全反	非望又非一	法釈	—	—	郭知玄云非聖也	○	
						法釈	—	—	釋氏云非一也		
165	董	３５ウ	捻	作孔反	—	年号	作孔反	○	—	—	
166	腫	２３オ	悚	息拱反	懼也	名義	—	—	—	×	
167	腫	３５ウ	捧	敷隴反	兩手持	秘蔵	敷隴反	○	兩手持上聲	○	
168	腫	３６オ	拱	居悚反	—	年号	居悚反	○	—	—	
169	腫	３６ウ	擁	於隴反	障也持也	相好	—	—	孫愐云障也排也	○	
						法釈	—	—	麻果云一持也		
170	腫	４２ウ	甕	時冗反	—	三覚	時冗反	○	—	—	
171	腫	５３ウ	踊	餘隴反	登上	五行	—	—	祝尚丘云登上也	○	
172	講	２９オ	講	古項反	論也説也解	浄土	—	—	—	×	
						法釈	—	—	—		
173	紙	３９オ	捶	之累反	以杖打擊	法釈	—	—	—	×	
174	紙	４０ウ	技	渠綺反	巧	法釈	—	—	—	×	
175	旨	４オ	雉	直几反	野雞也	年号	直几反	○	孫愐云野鷄（略）	○	
176	旨	８ウ	美	無鄙反	佳也甘也	法釈	—	—	—	×	
177	旨	２８ウ	視	承旨反	比也看也	年号	承旨反	○	今案（略）鄭玄曰視猶比也	△	
178	旨	３４オ	指	職雉反	手足又斤也	法釈	—	—	薛峋云手足一也	△	
179	旨	３８ウ	揆	—	法也	五行	葵癸反	—	—	×	
180	止	１オ	滓	側李反	引上	名義	—	—	—	×	
181	止	１９ウ	耳	而止反	聞	和名	—	—	—	×	
						法釈	—	—	—		
182	止	２５ウ	恃	時止反	憑也	法釈	—	—	孫愐云倚也憑託也	△	
183	止	３３ウ	始	詩止反	初也	年号	詩止反	○	郭知玄云初也	○	
184	止	７２オ	矣	于紀反	言詞之上句	法釈	—	—	—	×	
185	尾	１４オ	虫	虚鬼反	蝮虫也	法釈	—	—	—	×	
186	尾	７７オ	斐	芳匪反	—	五行	妃尾反	×	—	—	
187	語	３１ウ	女	尼与反	妻也能也婦也	浄土	—	—	—	×	
188	語	３６ウ	柜	羌舉反	至也達也	五行	—	—	止也至也達也（略）	○	
189	語	７７ウ	舉	居許反	高也	法釈	—	—	—	×	
190	麌	２１ウ	愈	以主反	勝	法釈	—	—	—	×	
191	麌	４３ウ	武	无主反	跡也健也	年号	無主反	○	薛峋云（略）健也（略）孫愐云（略）礼記武跡也	○	
192	麌	６０オ	雨	于矩反	水下雲中	法釈	—	—	—	×	
193	麌	６９ウ	煦	況于反	以氣育物	五行	況羽反	×	—	×	
194	姥	２１ウ	怒	奴古反	志甚	名義	—	—	—	×	
195	姥	２６オ	怙	胡古反	恃也	名義	—	—	—	×	
196	姥	２７ウ	詁	姑戸反	訓古言	名義	—	—	東云古今異辞訓古言（略）	○	
197	姥	６５ウ	祖	則古反	九月也本也遠也法也始也	演奥	則古反	○	薩甸云始也（略）	△	
198	姥	７１オ	古	姑戸反	時代之故	五行	—	—	曹憲云故也案古謂時代久故也	○	
199	姥	７６ウ	鼓	姑戸反	動也擊也	法釈	—	—	陸法言云動也韓知十云擊也	○	
200	薺	２６ウ	悌	徒礼反	善事兄長	名義	—	—	—	×	
201	薺	６４ウ	禮	盧啓反	理也敬也	法釈	—	—	釋氏云敬也（略）	△	
202	賄	９ウ	猥	烏賄反	鄙也衆也	三覚	—	—	切韻云猥鄙也（略）	○	
						浄土	—	—	麻果云廣雅云鄙也衆也（略）		
203	海	４６オ	乃	奴亥反	往事也又汝也	法釈	—	—	—	×	
204	海	５７オ	待	徒亥反	留也	法釈	—	—	—	×	
205	海	６２オ	宰	—	膳官又割也	勘註	—	—	郭知玄曰割也（略）祝尚丘云官主也	△	
206	阮	２６オ	幰	虚偃反	車蓋	法釈	—	—	—	×	
207	阮	３２ウ	婉	於阮反	轉避也	法釈	—	—	麻果云婉轉避也	○	
208	混	２６オ	忖	倉本反	則度	名義	—	—	東云心有所度也	×	
209	旱	５５オ	祖	徒旱反	免衣	五行	—	—	薛峋云免衣	○	
210	旱	１ウ	滿	莫旱反	盈	法釈	—	—	孫愐云充也盈也	○	
211	銑	１オ	洗	蘚顯反	濯又皮潔	名義	—	—	東云絜也大裔也一浴	△	
212	銑	１ウ	泫	胡犬反	又混流又垂涕	名義	—	—	—	×	
213	獮	１１ウ	鱓	常演反	魚敗	弘決	—	—	—	×	
214	獮	１５オ	蟺	—	蜿蟺也	五行	—	—	釋氏云蜿蟺（略）	△	
215	獮	３１オ	辯	符蹇反	利辞又別也	法釈	—	—	■愐云別也理也	△	
216	篠	５９ウ	皎	古了反	月光白	相好	—	—	—	×	

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
217	小	７７オ	兆	呂小反	十億	五行	—	—	釋氏曰十千曰万十万曰億七億曰兆（略）	△	治小反か
218	晧	２９ウ	討	他浩反	代也	名義	—	—	東云淩尋也伐也（略）	△	
219	晧	３１ウ	好	呼浩反	佳也冝	相好	—	—	—	×	
						法釈	—	—	—		
220	晧	６２ウ	寶	博抱反	金玉之類	年号	博抱反	○	郭知玄云金玉之類（略）	○	
221	果	５６ウ	褒	古火反	危束	名義	—	—	東云苞束也幞也（略）	△	
222	果	６７ウ	果	古火反	事逐勝敢	法釈	—	—	郭知玄云事遂曰一	△	
223	馬	４オ	雅	五下反	雅素又貞徐	相好	—	—	—	×	
224	馬	５ウ	馬	莫下反	武畜	法釈	—	—	郭知玄云武畜也	○	
225	馬	６５ウ	社	市者反	地神主	五行	—	—	郭知玄曰社稷也一曰地主以樹為之	△	
226	養	４４オ	掌	艤兩反	守物又正也	法釈	—	—	—	×	
227	蕩	７６オ	牓	博朗反	題板示人	和名	博朗反	○	孫愐切韻云（略）題示也	△	
228	蕩	７６オ	牓	博朗反	—	和名	博朗反	○	—	—	
229	梗	３１オ	警	几影反	—	五行	九影反	△	—	—	
230	梗	４９オ	景	几景反	晷在也日月也	年号	—	—	—	○	
						年号	—	—	釋氏云日晷（略）■■云（略）在日月之上日月（略）		
231	耿	２０オ	耿	古幸反	大光永状	弘決	—	—	—	×	
232	迥	３１ウ	聲	口冷反	亥也	名義	—	—	東云（略）親戚之一咳也	△	
233	有	３４オ	手	書久反	取也教也臂也	法釈	—	—	—	×	
234	有	７６オ	帚	之久反	掃刷具	名義	之久反	○	東云（略）掃刷具也（略）	○	
235	厚	７４ウ	毆	烏口反	擊揺	五行	—	—	薛峋云擊説文撫擊也	△	
236	琰	３８オ	撿	—	挍又括	法釈	—	—	孫愐云撿挍也（略）	△	
237	范	９ウ	犯	虞广反	侵也	法釈	—	—	釋氏云侵也	○	
238	送	３ウ	鳳	馮貢反	靈鳥也	年号	馮貢反	○	韓知十玄靈鳥	○	
239	送	２０オ	齆	於■反	鼻塞	医心	—	—	郭知玄云鼻内肉塞又鼻塞病不聞外氣	○	
240	寘	１３オ	賜	斯義反	与也賚也	年号	斯義反	○	曹憲云与也（略）孫愐云賚也（略）	○	
241	寘	１８オ	睡	是偽反	坐眠	法釈	—	—	—	×	
242	至	２１ウ	恣	資四反	縱心	名義	—	—	東云縱心也能也縱逸也	○	
243	至	４７ウ	出	尺類反	遣	法釈	—	—	武玄之云發遣也（略）	△	
244	至	４８オ	自	疾二反	非他也又從也	法釈	—	—	曹憲云對他之稱也	×	
245	至	７５ウ	弃	詰利反	止也	法釈	—	—	—	×	
246	志	２９オ	誌	之吏反	銘	名義	—	—	東云識也認記也意也銘一也愐云記也	○	
247	未	１オ	沸	府謂反	水波涌	名義	—	—	東云煮水熱涌也（略）	△	
248	未	１３ウ	貴	居謂反	尊也高	圖太	居謂反	○	陸法言曰（略）高也	○	
						法釈	—	—	釋氏云尊也高也		
249	未	１４オ	蝟	云貴反	蟲	五行	—	—	—	×	
250	未	２９オ	謂	云貴反	偁也稱	法釈	—	—	—	×	
251	未	２９ウ	諱	許貴反	—	五行	許貴反	○	—	—	
252	未	７０ウ	味	無沸反	所識	法釈	—	—	釋氏云口所識也	○	
253	御	１８オ	助	鋤據反	佐	法釈	—	—	麻杲云佐也	○	
254	御	２１ウ	恕	式據反	以心度物曰怒	名義	—	—	—	×	
255	御	２３オ	慮	力據反	謀誠	法釈	—	—	—	×	
256	御	２７ウ	詛	側據反	咒人	法釈	—	—	—	×	
257	御	３８オ	據	居御反	—	法釈	居御反	○	—	—	
258	遇	１８ウ	具	其遇反	辨也備也	法釈	—	—	—	×	
259	遇	２４ウ	懼	其遇反	恐也	名義	—	—	—	×	
						法釈	—	—	—		
260	遇	６０ウ	霧	武遇反	天気	五行	—	—	—	×	
261	暮	２９オ	護	胡故	救視	年号	胡故反	○	曹憲云救視也（略）薛峋云極救相視又助	○	反字無
262	暮	６０ウ	露	洛故反	又彰顕	法釈	—	—	釋氏云露者彰顕也	○	
263	暮	６４ウ	祚	昨故反	—	年号	昨故反	○	—	—	
264	暮	７６オ	布	博故反	陳　枲織	法釈	—	—	郭知玄云織麻（略）	△	
265	霽	１７ウ	睨	覓斗反	明視	勘註	—	—	切韻云明見也或側視也	△	
266	霽	２１ウ	惠	胡桂反	仁也	法釈	—	—	陸法言云仁也	○	
267	霽	２７オ	詣	■計反	至也	法釈	—	—	釋氏云至也	○	
268	霽	２７ウ	計	古詣反	筭也	浄土	—	—	釋氏云計算也（略）	○	
269	霽	２７ウ	諦	都計反	審也	法釈	—	—	釋氏云實也	△	
270	祭	１５オ	蚋	而鋭反	似蚊而小	五行	而鋭反	○	—	×	
271	祭	５４ウ	袂	—	衣標袖	名義	—	—	東云袖端（略）	△	
272	祭	５７オ	箙	—	護也	法釈	—	—	—	×	
273	卦	１３オ	賣	莫懈反	貨物取財	法釈	—	—	—	×	
274	卦	３６オ	挂	—	懸也	勘註	古賣反	—	曹憲云懸於物者曰挂也陸法言云懸也（略）	○	

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
275	怪	２９ウ	誡	古拜反	警告	名義	—	—	東云相警以言也警告也（略）	○	
276	怪	６７オ	界	古拜反	掟也	法釈	—	—	陸法言云境也	×	
277	夬	１６ウ	蠆	丑芥反	毒蟲	五行	丑芥反	○	毒蟲	○	
278	夬	７０オ	喝	於芥反	嘶聲	秘蔵	於芥反	○	嘶音也	△	
279	夬	７０ウ	唄	薄邁反	梵聲	法釈	—	—	—	×	
280	隊	３２ウ	妹	—	女弟	倶舎	—	—	小切一云女弟也	○	
281	代	２１ウ	態	他代反	恣	名義	—	—	東云姿詹也（略）姿案姿容皃（略）	△	
282	代	４８ウ	劾	胡愛反	推■罪人	五行	故愛反	△	推劾（略）釋氏云推覈取其實辞	△	
283	震	２９オ	診	直刃反	候詠	名義	—	—	—	×	
284	震	６０オ	震	職刃反	東方又雷聲	五行	—	—	郭知玄曰雷也（略）孫愼云卦至東方起也（略）	△	
285	願	１２ウ	販	方願反	多也沽也商也	五行	方願切	○	—	×	
286	願	２３オ	怨	於願反	恨深	法釈	—	—	郭知玄云恨深也	△	
287	慁	６９ウ	噴	普悶反	土氣	医心	普悶反	○	吐氣也	○	
288	翰	１０オ	犴	五旦反	獄也	法釈	—	—	—	×	
289	翰	１３オ	贊	則幹反	助也	五行	則幹反	○	陸法言云助（略）孫愼云韻略佐助	○	
290	換	２０ウ	乱	力段反	段理治	法釈	—	—	—	×	
291	換	４９オ	乱	落段反	煩　疲也雜也	法釈	—	—	—	×	
292	換	７０オ	喚	呼段反	相呼	法釈	—	—	釋氏云相呼也	○	
293	霰	２８オ	現	戸見反	如無忽有	法釈	—	—	—	×	
294	霰	４６オ	片	普見反	半也	五行	普見反	○	曹憲云判也（略）釋氏云半也（略）	○	
295	霰	７５オ	殿	妬練反	在官有過又霞室	浄土	—	—	郭知玄曰殿王者寢室（略）	△	
296	線	２１ウ	戀	力眷反	情貪	法釈	—	—	—	×	
297	線	３０オ	諺	魚變反	傳言	秘蔵	魚變反	○	傳言也	○	
298	線	３１オ	變	彼眷反	非常又阪	法釈	—	—	—	×	
299	線	４３オ	眷	居倦反	顧	浄土	—	—	王仁煦云反顧戀愛也	○	
300	号	４４オ	号	胡到反	呼也	法釈	—	—	—	×	
301	過	１３ウ	貨	呼臥反	資産	五行	—	—	釋氏云金玉曰貨布帛曰賄説文曰資産也	○	
302	過	２７オ	課	苦臥反	識役	名義	—	—	東云差也役也又去試也（略）	△	
303	漾	２５オ	快	於亮	心中不服	弘決	於亮反	○	郭知玄云心中不服	○	反字無
304	漾	２７ウ	讓	如仗反	推賢之又言相責	浄土	—	—	郭知玄曰讓推賢之言也長孫訥言云孫心也説文相責讓也	○	
305	漾	３０ウ	誑	九妄反	妄言惑人	法釈	—	—	釋氏云妄言惑人也	○	
306	漾	３４オ	妄	—	不信	浄土	—	—	郭知玄云妄言不信也（略）	○	
307	漾	６７ウ	唱	—	歎息也	法釈	—	—	—	×	
308	漾	７０オ	唱	常亮反	又讃私又先也	法釈	—	—	—	×	
309	勁	２０オ	聖	試正反	—	年号	試正反	○	—	—	
310	勁	２５オ	性	息政反	心也	法釈	—	—	郭知玄云心一也	○	
311	勁	３３ウ	姓	息政反	生也民也	法釈	—	—	郭知玄云氏也	△	
312	徑	６２オ	定	特徑反	審實也	年号	特徑反	○	郭知玄云審實	○	
313	証	２７ウ	認	而證反	誌物	名義	—	—	東云諸物（略）	△	
314	証	３０オ	證	諸應反	—	年号	諸應反	△	—	—	
315	嶝	５３オ	蹬	都鄧反	折踐涉履	名義	—	—	—	×	
316	宥	３ウ	鶖	疾僦反	鵰也	法釈	—	—	釋氏云鵰也	○	
317	宥	３７ウ	授	承秀反	—	年号	承秀反	○	—	—	
318	宥	４９オ	就	痛僦反	成也即	法釈	—	—	釋氏云成也	△	
319	宥	６３ウ	富	府嗣	饒財	法釈	—	—	郭知玄云饒財也	○	反字無
320	宥	６４ウ	祐	—	神助	年号	—	—	陸法言云神助（略）	○	
321	宥	７１ウ	咒	職口反	詛也	法釈	—	—	—	×	
322	候	４オ	雊	古候反	雉鳴	五行	—	—	郭知玄曰雉鳴（略）孫伾云雷始動雉鳴名雊	○	
323	候	５８オ	後	胡遘反	在事■	年号	—	—	釈氏云在事之後	△	
324	候	７２ウ	鬪	丁豆反	争	法釈	—	—	孫愼云争也（略）	○	
325	沁	３２ウ	妊	汝鴆反	孕也	法釈	—	—	—	×	
326	鑑	２５オ	懺	楚鑑反	目陣罪	浄土	—	—	孫伾云韻略自陳罪也	○	
327	屋	４ウ	鹿	盧谷反	獸名	法釈	—	—	—	×	
328	屋	７ウ	牧	莫卜反	驚牛又畜養	勘註	—	—	曹憲云（略）畜養也	△	
329	屋	９オ	獨	徒谷反	単也	浄土	—	—	—	×	
						法釈	—	—	—		
330	屋	３１オ	讀	徒谷反	開眼者	浄土	—	—	—	×	
						法釈	—	—	—		
331	屋	６３ウ	宿	息逐反	夜止又久也	悉字	—	—	—	×	
						法釈	—	—	—		

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
332	屋	64オ	祝	—	記吉祭	園太	之育反	—	—	×	
333	屋	64ウ	禄	盧谷反	又口■也■俸也	年号	盧谷反	○	郭知玄云秩俸	△	
334	屋	65オ	祝	之六反	凭神	園太	—	—	—	×	
335	屋	65ウ	福	方六反	神所降	年号	方六反	○	郭知玄云福祐也神所降	○	
336	屋	65ウ	禿	他谷反	人无髪	秘蔵	他谷反	○	無髪也	△	
337	屋	67ウ	畜	許竹反	養性也	五行	—	—	曹憲云養性也	○	
						法釈	許竹反	○	—		
338	沃	2オ	鵠	胡沃反	鳥名侯所[illegible]	浄土	—	—	—	×	
339	沃	77オ	魯	苦沃反	帝	五行	—	—	—	×	
340	燭	10オ	獄	語欲反	窄罪人所	法釈	—	—	郭知玄云牢罪人所也	○	
341	覚	77オ	學	戸角反	習也	法釈	—	—	釋氏云習也	○	
342	覚	77オ	覺	古嶽反	眼竊又知也	法釈	—	—	—	×	
343	質	62オ	密	美筆反	静也止也	名義	—	—	東云静也（略）止也山脊也	○	
344	物	8オ	物	無仏反	有刑之類	法釈	—	—	—	×	
345	物	35ウ	拂	敷物反	堅垢	法釈	—	—	—	×	
346	物	45ウ	勿	—	无佛人　莫也	法釈	—	—	孫愐云莫也	△	
347	物	64ウ	祓	敷物反	除祥	年中	敷物反	○	釋氏云除不祥祭（略）	△	
348	月	72オ	闕	去月反	象巍又欠少	浄土	—	—	—	×	
349	没	10オ	猝	—	暴尓疾也	五行	鹿没反	—	—	×	
350	没	21ウ	忽	呼骨反	—	浄土	呼骨反	○	—	—	
351	没	27オ	訥	諾■反	艱難	名義	—	—	東云言語艱難也（略）	○	
352	没	61ウ	突	陀骨反	觸也	浄土	—	—	郭知玄曰牴獸以角觸物韓知十云牛牴觸	△	
353	曷	1オ	渴	■割反	情中欲飲	名義	—	—	—	×	
354	末	17オ	魃	博末	旱	和名	歩末反	×	孫愐切韻云魃（略）旱神也	△	反字無
355	末	36ウ	括	古活反	—	五行	古活反	○	—	—	
356	末	53オ	跋	捕朱反	行皃	名義	—	—	—	×	
357	黠	74ウ	殺	所八反	戮也	法釈	删八反	×	陸法言云（略）戮也削也	○	
358	屑	61オ	竊	千結反	盗也	浄土	—	—	郭知玄云竊盗也釋氏云竊私盗也孫愐云盗目中出也	○	
359	薛	10ウ	鼈	并列反	—	五行	并列反	○	—	—	
360	薛	26オ	悅	翼雪反	喜也佩巾	勘仲	翼雪反	○	陸法言曰（略）悅樂也喜也	△	
361	薛	29ウ	説	失■反	談述人言	浄土	—	—	郭知玄云説談述也以言誘他也	△	
362	薛	36オ	哲	陟列反	明智	五行	陟列反	○	釋氏云明智也	○	
363	薛	36オ	折	—	擊也	法釈	—	—	—	×	
364	薛	43ウ	缺	傾雪反	器破	法釈	—	—	—	×	
365	薛	56ウ	裂	呂薩反	破也	名義	—	—	東云刀分破也破也（略）	○	
366	薬	3オ	鵲	七雀反	鳥而十日駮	法釈	—	—	郭知玄云似鳥而少白駮也	△	
367	薬	10オ	玃	古縛反	大猿	五行	居縛反	△	長孫訥言云案説文大母猴（略）	△	
368	薬	68オ	嚼	在爵反	咀齧	五行	—	—	釋氏云咀齧也	○	
369	鐸	12オ	鰐	五各反	殺子魚	和名	—	—	—	×	
370	鐸	23オ	悪	烏各反	不善	法釈	—	—	釋氏云不善也（略）	○	
371	鐸	30ウ	諾	奴各反	相然許	名義	—	—	東云相然許詞也（略）	○	
372	陌	16ウ	魄	普伯反	魂　落不得志	法釈	—	—	陸法言云魂一也	△	
373	陌	59ウ	白	傍陌反	西方也	年号	傍陌反	○	麻果曰（略）西方（略）孫愐云蒼頡告也説文西方色（略）	○	
374	陌	62ウ	宅	場陌反	居第	年号	場陌反	○	釋氏云居第也	○	
375	麦	30ウ	謫	徒麦反	責也	名義	渉革反	○	東云（略）相責讃也罰罪一也	○	
						名義	徒麦反		責也（略）		
376	麦	68ウ	咋	之赤反	多音	三覚	—	—	釋氏云大聲多言貌也	△	『無名字書』反切誤
						三註	—	—	釋氏云大聲又多言貌也		
377	昔	25ウ	惜	私積	慳　愛也	法釈	—	—	長孫訥言云慳也	△	反字無
378	昔	37オ	掖	—	持也	相好	—	—	孫愐云持臂也	△	
379	昔	56ウ	襲	必昔反	衣間跡	名義	—	—	東云一衣也一謂衣間蹶也（略）	△	
380	錫	63ウ	寂	昨歴反	無人常	法釈	—	—	—	×	
381	職	21ウ	息	相即反	喘也上也	法釈	—	—	麻杲云止也	△	
382	職	45オ	棘	紀力反	小束　束戟也急也	法釈	—	—	陸法言云小棗也孫愐云刺也	△	
383	徳	7ウ	特	待徳反	文半又単獨	法釈	—	—	—	×	
384	徳	13オ	賊	昨則反	殘害	政事	昨則反	○	釋氏曰竊也殘害也	○	
385	徳	56オ	緘	闇則反	盛香具	法釈	各則反	△	清徹云盛香具也	○	
386	徳	57ウ	徳	多則反	—	年号	多則反	○	—	—	
387	徳	58オ	得	多則反	獲也満也	法釈	—	—	郭知玄云獲也	△	
388	徳	59オ	黒	呼徳反	皇也	法釈	—	—	祝尚丘云墨色也	△	

通番	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
	韻	所在	本文	無名反切	無名漢文注	逸文	逸文反切	反切	逸文漢文注（摘記）	漢文注	備考
389	緝	２５オ	悒	英及反	心志不舒	名義	—	—	東云居之所居也於心志不舒也（略）	○	
390	緝	４７ウ	執	之入反	捉也	法釈	—	—	郭知玄云捉也	○	
391	合	６８オ	帀	祖合反	當口入	法釈	—	—	—	×	
392	合	７６オ	帀	子答反	周遍	法釈	—	—	釋氏云周遍也	○	
393	狎	３４ウ	押	—	撿也	五行	胡甲反	—	—	×	
394	葉	３３ウ	妾	—	次妻	法釈	—	—	—	×	
395	葉	３６オ	攝	書涉反	持追録	浄土	—	—	韓知十云攝引持也	△	
						法釈	—	—	孫他云録也		
396	葉	３６ウ	接	紫葉反	交也	浄土	即葉反	×	麻果云支也	×	
397	葉	５４ウ	躡	尼輒反	踏也	名義	—	—	東云蹀也	△	
398	帖	２４オ	愜	起涉反	服也	名義	—	—	東云心服也（略）心服快稱也（略）	△	
399	帖	５７オ	褻	—	牒	名義	—	—	—	×	
400	洽	２６ウ	恰	苦洽反	用心又勤也	名義	—	—	東云一々勤也專用也	△	
401	業	２４ウ	怯	區劫反	恐	五行	去劫反	×	—	×	